



- 【大会で行われた主な内容】**
- 5月24日**
- ・協議会総会
 - ・豆田町伝建保存会（大分県日田市）による事例発表
 - ※次回開催地
 - ・河東義之先生による記念講演
 - ・真壁城跡見学
 - ・真壁祇園囃子鑑賞
 - ・情報交換会
- 5月25日**
- ・登録文化財の町並み見学
 - ・真壁白井座公演鑑賞
 - ・文化庁講演
 - ・真壁の町並みに関する住民研修（15班に分かれて登録文化財の建物内で意見交換）
 - ・災害対応に関する職員研修
 - ・情報交換会
- 5月26日**
- ・雨引観音文化財見学
 - ・月山寺文化財見学
 - ・栃木市嘉右衛門町見学
- 【写真キャプション】**
- ① 初日に行われた協議会総会（大和ふれあいセンター「シトラス」）
 - ② 真壁白井座保存会による郷土芸能「人形浄瑠璃」の披露公演（真壁伝承館）
 - ③ 真壁御囃子保存会による郷土芸能「真壁祇園囃子」の披露公演（真壁体育館）
 - ④ 震災当時の派遣職員によるミニシンポジウム（真壁福祉センター）

第39回 全国伝統的建造物群保存地区協議会

桜川市大会

5月24日～26日開催



全国の伝建地区から
270人の仲間が桜川市を訪れました。

登録文化財の町並み見学で説明を受ける参加者たち

茨城県で初の重伝建地区選定から9か月で東日本大震災に見舞われた真壁の町並み。様々な支援を受けて復旧が進む町並みを、全国の仲間が訪れました。

5月24日から26日までの3日間、真壁地区の町並みを主会場に、全国伝統的建造物群保存地区協議会桜川市大会を開催しました。

大会は、国の重要伝統的建造物群保存地区を有する市町村の住民と行政職員、約270名が参加。北は函館から南は竹富島までの関係者らが、桜川市の市民とともに研修を行いました。

メイン会場の一つである真壁伝承館では、真壁の町並み保存に長く関わっていただいている河東義之先生（小山工業高等専門学校名誉教授）が、登録文化財制度への取り組みから震災復旧、そしてこれからの課題について講演しました。

雨の中行った住民研修では、全国の保存地区の方々と真壁の町並みを歩き、真壁の良い点、改善すべき点などについて、活発な意見交換を行いました。

期間中、真壁伝承館では人形浄瑠璃真壁白井座保存会による公演、真壁体育館では真壁御囃子保存会による祇園囃子を披露し、郷土芸能を鑑賞していただきました。

真壁体育館でのアットホームな情報交換会では、桜川市で見られる郷土の食や、参加各地の地酒を紹介。お互いの町並みの将来について、じっくりと話をする貴重な機会となりました。

最終日は、雨引観音と月山寺を見学し、最後に栃木の町並みを見学して終了しました。

今大会は、真壁の町並みの保存や活用に携わる住民の方々が中心となって企画や運営を行いました。町並み見学での休憩所おもてなしも、大会ボランティアとして市民の方々の協力で実施しました。市民の皆さまの力で、充実した大会となりました。

登録文化財で行われた住民意見交換会

